様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年　４月１２日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2011 ～ 2012
課題番号：23820058
研究課題名（和文）　若者の議院外政治運動と「無党派」的政治文化―戦前日本における実態と比較史的考察
研究課題名（英文）　Political Movement of Young People Outside the Parliament and its Non-partisan Political Culture in Prewar Japan
研究代表者
伊東　久智　（ITO　HISANORI）
早稲田大学・大学史資料センター・助手
研究者番号：90434373

研究成果の概要（和文）：本研究は、日露戦後から大正期にかけて、議会周辺で展開された若者を担い手とする政治運動（「院外青年」運動）を、超党派的＝世代的連帯への志向性など若者独自の政治文化に着目しつつ明らかにしようとしたものである。
具体的には、本研究を①〈基幹的研究〉と②〈発展的研究〉とに大別し、①では、(1)中心的活動家の一次史料調査と(2)「院外青年」運動出身者の成年（代議士）時代の活動を分析した。また②では、(1)「院外青年」運動を受けて展開された地域青年党運動と、(2)同時代の国外（植民地を含む）における青年政治運動に関する基礎的調査を行った。
以上により、「院外青年」時代の運動と代議士時代との活動とをシームレスに把握しつつ、さらにその知見を〈地域〉や〈帝国〉といった発展的視座に接続するための材料を確保することができた。

研究成果の概要（英文）：This research tried to clarify the political movement of young people outside the parliament (“INGAI-SEINEN” movement) from Russo-Japanese War to Taisho era. In particular, paying attention to their own political culture of young people, such as intentionality to the bipartisan and generational solidarity.
Specifically, I was classified as ①“basic research” and ②“development research”. In ①, I conducted a survey of (1)historical material about the core activists and (2) their adult age (Rep. period). In ②, I conducted a basic survey of (1)regional and (2)foreign (including colonial) political movement of young people.
By further research, I can now grasp seamlessly their activities from youth to adult, and obtain a lot of material that lead to deeper perspective, such as regional and imperial.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
平成２３年度	700,000	210,000	910,000
平成２４年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総　計	1,700,000	510,000	2,100,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：日本史
キーワード：日本近現代史、若者、青年、学生、政治運動、政治文化、議会政治、政党政治

１．研究開始当初の背景

二大政党制への「進歩」が語られる成熟した議会政治を横目にみながら、若者を中心とする「無党派層」の拡大が進行している。そうした若者と議会政治との没交渉な関係性について、歴史的な視座から検討しようとした研究は意外なほどに少ない。

というのも、戦後歴史学がすくい上げてきた若者の政治運動は、1920 年代の学生社会運動に代表される社会主義的運動にほぼ限られてきたといってよく、議会政治を前提とした運動はこれまでほとんど顧みられることがなかったからである。

しかし日露戦後から大正期にかけての議会周辺には、政治への極めて強い志向性を有する一群の若者たちが存在し、彼らはその後、昭和戦前期には代議士へと成長していく。本研究は、従来政党史の付記的存在（つまり別働隊や下部組織）としてしか扱われてこなかった彼らの政治運動・政治文化に着目し、その独自性を歴史的に位置づけるべく構想されたものである。

２．研究の目的

本研究は、日本近代における若者の政治運動、とりわけ議会周辺において展開された政治運動の実態に、演説技術の卓越性や超党派的＝世代的連帯への志向性といった若者独自の政治文化に着目しつつアプローチすることによって、〈若者と政治との関係史〉という日本史の新たな切り口を構想することを目的として遂行されたものである。

対象としては、日露戦後から大正期にかけて院外活動を開始し、昭和戦前期には代議士へと成長していく一群の若者たちに焦点を定め、「院外青年」と定義した彼らの軌跡（青年時代の運動）と行方（代議士時代の活動）とをシームレスに把握することを目指した。

具体的には、下記 4 点の課題を設定した。

(1) 中心人物の悉皆的な一次史料調査を行うこと。
(2) 成年（代議士）時代へと研究の歩を進めること。
(3) 地域青年党運動に関する基礎的調査を行うこと。
(4) 国外（ドイツ史・朝鮮史）における青年政治運動に関する研究史整理を行うこと。

なお、上記(1)(2)は博士論文（今年度中に提出予定）に直結する基幹作業であり、他方、(3)(4)はその後の新たな研究へと向けた準備作業という位置づけである。

３．研究の方法

研究目的を達成するため、本研究を〈基幹的研究〉と〈発展的研究〉とに大きく二分類し、順を追って研究を進めた。基幹的研究とは、上記「研究の目的」欄記載の課題(1)(2)に相当し、発展的研究とは、同じく(3)(4)に相当している。具体的には以下の通りである。

党派	団体名	結成年	中心人物
反政友会系統	丁未倶楽部	1907 年 12 月	鈴木正吾（1890 年愛知県生まれ。明大卒。1932 年衆議院議員）、西岡竹次郎（1890 年長崎県生まれ。早大卒。1924 年衆議院議員）ほか
	立憲青年党	1912 年 2 月	橋本徹馬（1890 年愛媛県生まれ。早大中退）
政友会系統	大日本青年党	1913 年 1 月	前田郁（1889 年鹿児島県生まれ。明大に学ぶ。1947 年衆議院議員）
	青年自由党	1913 年 2 月	肥田琢司（1889 年広島県生まれ。1928 年衆議院議員）・理吉（1891 年広島県生まれ。明大に学ぶ）兄弟
	鉄心会	1916 年 11 月（実質的には 1914 年末頃より活動）	土倉宗明（1889 年富山県生まれ。早大に学ぶ。1930 年衆議院議員）、藤井達也（1888 年青森県生まれ。帝大卒。1928 年衆議院議員）ほか

(1) 基幹的研究（平成 23～24 年度）

①中心人物に関する一次史料調査

これまで各集団・人物（上表参照）に関する研究を一通りまとめ終えたという土台に立って、博士論文を見据えた本格的な一次史料調査を地域・日程を分かちつつ複数回行う。その際、下記②を見据え、対象とする時期を昭和戦前期にまで及ぼすこととした（つまり、①と②とはその相互関連性に留意しつつ進められたものである）。

②成年（代議士）時代に関する分析

昭和戦前期を対象とした政治史研究（資料集）の収集・読解・研究史整理を行う。

(2) 発展的研究（平成 24 年度後期）

①地域青年党に関する基礎的調査

第一次大戦後、「院外青年」運動の後を受けて全国的な規模で展開された地域青年党運動を対象とし、特に「院外青年」運動との関連性に着目しながら、文献の収集と研究史の整理を行う。それによって、今後取り組むべき事例研究（具体的には、1 府 10 県の青年団体が参加した日本海青年党連盟を想定している）の足場を固めることが狙いである。

②国外の青年政治運動に関する基礎的調査

青年運動研究の盛んなドイツ史及び「帝国」のパースペクティブから朝鮮史をそれぞれピックアップし、研究状況の把握と文献の収集・読解をスタートさせる。これはいうまでもなく、将来的な研究課題である青年政治運動に関する比較史的考察のための第一歩として位置づけられるものである。

４．研究成果

上記「研究の方法」欄記載の研究分類にしたがい、その成果を整理・列挙すれば以下の通りとなる。

(1)基幹的研究

①中心人物に関する一次史料調査

平成 23 年度には下記の史料調査を行った。

・12 月　大阪調査（大阪府立中央図書館・大阪大学附属図書館）

1930 年創刊の雑誌『政界往来』の調査を行った。現在、同誌の大半は国立国会図書館に所蔵されているが、ここではその欠号分である 7,8,10 巻の確認を行い、鈴木正吾・西岡竹次郎の執筆記事及び座談会記事を収集した。特に西岡が参加した座談会記事は戦時期の政治状況を知る上で重要な内容を含むものであった。

・12 月　長崎調査（長崎県立長崎図書館）

西岡竹次郎の事績調査を行った。具体的には、同人の総選挙に際しての活動を跡づけるため、『長崎新聞』『長崎日日新聞』『東洋日の出新聞』の三紙を通覧し、彼の奇抜な選挙戦術が既成勢力の強い反発を招いていたことが裏づけられた。

・2 月　愛知調査（豊橋市中央図書館）

鈴木正吾の事績調査を行った。具体的には、同人の総選挙に際しての活動を跡づけるため、『新愛知』『豊橋日日新聞』『豊橋新報』の三紙を通覧し、彼の演説技術に対する評判や選挙報道の党派的偏向性、さらには選挙活動に対する弾圧などを確認することができた。

以上の史料調査の成果は、5 月 19 日に開かれた日本選挙学会 2012 年度研究会において報告を行った（「主な発表論文等」欄参照）。

平成 24 年度には下記の史料調査を行った。

・7 月　大阪調査

「院外青年」に多大な思想的影響を与えた評論家・茅原華山が 1920 年に創刊した個人雑誌『内観』の調査を行った。ここでは法政大学多摩図書館等の近隣機関に所蔵のない号を対象とし、1933～44 年に発行された合計 97 冊を調査した。その結果、橋本徹馬及び鈴木正吾の執筆記事を発見・収集することができた。

・8 月　鹿児島調査

同県出身の「院外青年」・山元亀次郎及び前田郁の事績調査を行った。特に、山本の著書『新日本の活路と原動力』(1926 年)の確認と主要箇所の入力に重点を置き、その目的を達した。また、前田については、戦後の代議士時代の所属派閥が、「院外青年」時代の人脈と無関係ではないことが判明した。

・12 月　北海道調査

7 月の大阪調査と同様、雑誌『内観』の調査を行った。具体的には、1925～44 年に発行された合計 139 冊を確認し、これによって遠隔地に所蔵のある同誌については全ての調査を終えたことになる。これによって、大正半ばには一旦切れたかにみえる茅原と橋本・鈴木らの関係性が、成人時代にも継続していたことが明白となった。この点については、近隣機関所蔵分の調査によって今後さらに深めていきたいと考えている。

なお、以上の研究成果については、現在執筆中の博士論文に適宜盛り込んでいく。

また、上記の過程で、「院外青年」の母胎となった大学弁論部（「主な発表論文等」欄・発表論文②）、中央をフィールドとする「院外青年」と地域との関係性（発表論文①）についても検討を進め、派生的研究成果として公表することができた。さらに、学会発表②は、男性を担い手とする「院外青年」運動に対し、ジェンダー史的アプローチを試みたものである。これらによって、より多面的な「院外青年」像が明らかになったと考えている。

②成年（代議士）時代に関する分析

上記史料調査の各項目からも明らかなように、研究期間中、対象時期のウェイトを昭和戦前期へと移行させていったが、同時に基本的な研究文献・資料集の収集を進め、ほぼその目的を達した。

それらの読解を進めた結果、「院外青年」運動出身代議士たちの多くは、戦時期に新体制運動等において重要な位置を占めること、しかしそうした彼らの行動と青年時代の経験との関連性についてはいまだ明らかにはされていないことなどが確認された。

(2)発展的研究

①地域青年党に関する基礎的調査

第一次大戦後の地域青年党については、松尾尊兊氏が「地方的市民政社」として評価して以降、数多くの事例研究が積み重ねられてきた。本研究ではそれらの網羅的な収集に努め、読解・整理を試みた。作業段階としてはいまだその半ばに差し掛かったに過ぎないが、現在、研究史的には「各地の事例を今後ともより多く発掘すべき」という見解（例えば重松正史氏）と、「蓄積された事例を踏まえて総合的な地域青年党像を抽出すべき段階に至りつつある」という見解（例えば加藤千香子氏）とが併存していることがわかった。今後、複数の青年党が連合して成立した日本海青年党連盟の事例などに取り組むことで、また、「院外青年」運動との関係性にも言及することで、そうした研究状況に新たな視点を付加したいと考えている。

②国外の青年政治運動に関する基礎的調査

ドイツ史研究については、田村栄子氏や川手圭一氏らによる邦語・翻訳文献の収集を終えた。ただし、本格的な読解は今後の課題として残されている。

朝鮮史については、基礎的文献となる李基勳「日帝下青年談論研究」(2005 年度ソウル大学校博士論文）の目次・序論・第一章「大韓帝国期－1910 年代青年のディスクールの形成と展開」を業者委託によって翻訳し、現在読解を進めている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）
①伊東久智、「院外青年」と地域係争問題：橋本徹馬と愛媛県新居郡における産米検査問題を事例として、地方史研究、査読有、361 号、2013、1-19
②伊東久智、明治・大正期における早稲田大学雄弁会、早稲田大学史記要、査読無、43 巻、2012、53-88
http://hdl.handle.net/2065/35594

〔学会発表〕（計 2 件）
①伊東久智、「院外青年」からみた普通選挙と政党政治：鈴木正吾と西岡竹次郎の普選認識及び政治運動を中心に、日本選挙学会 2012 年度研究会、2012 年 5 月 19 日、筑波大学（茨城県）
②伊東久智、大正期「青年」政治運動の男性性：立憲青年党と和田（奥）むめおを事例として、ジェンダー史学会第 8 回年次大会、2011 年 12 月 10 日、明治大学（東京都）

６．研究組織
(1)研究代表者
伊東　久智　（ITO　HISANORI）
早稲田大学・大学史資料センター・助手
研究者番号：90434373

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：